

開学三十周年記念誌

Shiga University of Medical Science
30th Anniversary

滋賀医科大学

開学三十周年記念誌

滋賀医科大学



私は誓う、良心と尊厳をもって
医を実践することを

“ヒポクラテスの誓い”より





学歌

一、

千古の湖^{ウミ}を 見はるかす

人類愛の 高^{コウ}楼^{ロウ}に

叡^{エイ}知^チの光 照^テらしつつ

讃^{タタ}えよ 崇^{タカ}く 久^ク遠^{オン}の生^{イノチ}命

清^{キヨ}き星 われらが滋賀医科大学

二、

名^{メイ}利^リに遠^{トホ}き 医^イの道^{ミチ}を

虚^{キョ}榮^{エイ}の夢^{ユメ}に 奔^{ハシ}るなく

生^{シヨウ}死^{ウジ}の重^{オモシ}み 畏^{オソ}れつつ

究^{キウ}めよ 深^{フカ}く 仁^{ニン}慈^ジの科^カ学^{ガク}

広^{ヒロ}き郷^{サト} われらが滋賀医科大学

三、

源^{ゲン}流^{リウ}遙^{ハシ}か 文^{モン}化^カ史^シの

未^ミ来^{ライ}を拓^{ヒラ}く 学^{マナ}舎^{ビヤ}に

真^{シン}理^リの森^{モリ}を 育^{コウ}てつつ

伝^{デン}えよ 永^{エイ}く 光^{コウ}輝^キの歴^{レキ}史^シ

高^{タカ}き峰^{ミネ} われらが滋賀医科大学

目 次

巻頭言	学 長 吉川 隆一	7
国際交流協定締結大学からの祝辞		
北華大学(Beihua University)		12
哈爾濱医科大学(Harbin Medical University).....		14
ブリティッシュコロンビア大学(The University of British Columbia).....		16
ミシガン大学(The University of Michigan)		18
ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学(Université de Picardie Jules Verne).....		20
第 1 章 滋賀医科大学の歴史を振り返って		
1974年から1987年	初代学長 脇坂 行一	26
1987年から1993年	第二代学長 佐野 晴洋	32
1993年から1997年	第三代学長 岡田 慶夫	35
写真で綴るこの10年		38
第 2 章 滋賀医科大学の現況		
大 学	理事(教育等担当) 馬場 忠雄	44
附属病院	理事(医療等担当) 森田 陸司	52
第 3 章 滋賀医科大学の推進する重点研究プロジェクト		
神経難病研究	分子神経科学研究センター 木村 宏	60
磁気共鳴(MR)医学	MR医学総合研究センター 犬伏 俊郎	62
サルES細胞を用いた疾患モデルの確立と ヒトの疾患治療法の開発への応用	動物生命科学研究センター 鳥居 隆三	64
生活習慣病医学	生活習慣病予防センター 柏木 厚典	66
地域医療支援研究	医療福祉教育研究センター 三ツ浪健一	69
第 4 章 看護学科開設十周年記念座談会 「看護学科にかける夢」	看護学科	72

第5章 教師の期待と学生たちの夢

教師から学生へのメッセージ ～勢多だより バックナンバーより～ 84

学生たちの夢

将来のための大学生活	医学科1学年	浅利 建吾	88
研究者になるために	医学科1学年	関 千寿花	89
子供たちのために	医学科1学年	垂井 弘志	90
カンボジアでの経験とこれからの私	医学科3学年	香取さやか	91
社会に求められるナースを目指して	看護学科1学年	梅本 歩美	92
理想を現実に	看護学科4学年	福満 舞子	93

第6章 卒業生たちは今

夢 それは医者になること	医学科5期生	木築野百合	96
ちいさな戦士たちとともに	看護学科1期生	本多 綾子	98
卒業生たちの進路データ			99

第7章 大学を支えるひとびとからのエール

湖医会	湖医会会長	渡辺 一良	104
医学科後援会	医学科後援会長	松井 善和	105
看護学科後援会	看護学科後援会長	園田 和男	106
外国人留学生支援団体	大津市国際親善協会顧問	平野 喜三	107
しゃくなげ会	しゃくなげ会副理事長	西田 眞一	109

第8章 資料編

組織機構図	112
大学関係統計	113
附属病院統計	115
在職者名簿	123
建物配置図	140

あとがき

編集委員長 瀬戸 昭141



巻頭言

開学三十周年を迎えて

滋賀医科大学学長

吉川 隆一

小生が滋賀医科大学に赴任してきたのは昭和54年（1979年）でしたが、既にその1年前から附属病院開院の準備作業に加わっていたので、実質的には25年間在職していることになります。この度、本学が開学30周年を迎えますことは、医師としての人生の大半を本学で過ごした者にとって、個人的にも極めて感慨深いものがあります。

本学では過去二度記念誌が発刊されております。昭和59年に発刊された10周年記念誌では当時の脇坂行一学長が滋賀医科大学誕生にご尽力頂いた方々への謝意と順調な成長への喜びを表明され、平成6年に発刊された20周年記念誌では当時の岡田慶夫学長が無事成人に達した喜びと将来への構想を述べておられます。ここでは、その後の10年間、本学ではどのような活動がなされてきたかにつき総括すると共に、本学の将来を展望してみたいと存じます。

教学面での動き

先ず、平成10年には看護学科第一期生65名を社会へ送り出すと共に、大学院看護学専攻修士課程が設置され、初めての入学生9名を迎えました。看護学科は本年設立10周年を迎えますので別項を設けて纏められておりますが、毎年優秀な学生が入学してきており、看護師国家試験合格率は100%を維持していて順調に成長していると云えます。ただ、同時期に全国各地で4年制看護学科が設立されたこともあり、教員の定着率が低いこと、また修士課程への入学生数が伸び悩んでいることなどが課題であります。更に、4年制看護学科が近隣のいくつかの大学で設置されていることから、より競争的な環境に曝されることになるかと予測されます。今後、本学の特徴を社会にアピールしていく努力と共に、個性のある学科作りへの創意・工夫が必要と認識しております。

同じく平成10年、医学科において推薦入学に地域指定枠の導入が認められ、入学定員15名中7名以内で県内高校出身者を入学させることが可能となりました。県内出身者は卒業後本学に定着する率が圧倒的に高いことが統計で示されており、本制度の導入は地域医療への卒業生の参画を促進させ、地域社会

へ大きく貢献する原動力の一つになっていると云えます。また、推薦入学者への評価が高いことから、平成14年度より入学定員を15名から20名に増員いたしております。

平成12年には、医学科において「2年次後期学士編入学制度」を導入いたしました。秋入学と云う異例の制度導入であったためカリキュラムの変更が大変でしたが、毎年高い競争率の入学試験となっており、かつ大変優秀な学生が入学してくれていることは喜ばしい限りであります。平成16年度には入学定員を5名から10名に増員することになっており、今後更に増員していく計画であります。

研究面での動き

平成11年には分子神経生物学研究センターを改組し、新たに5部門からなる分子神経科学研究センターが設置されました。開学以来、神経科学分野の研究活動は本学研究活動の目玉であります。平成元年に設置された同センターはその中核組織となりました。分子神経科学研究センターの設置はその発展的改組であり、神経科学研究の新たな展開を目指した動きでもあります。昨年、7テスラの高磁場動物実験用MR装置が予算措置されたこともあり、平成16年、分子神経科学研究センターは更に改組され、後述する如く1部門2教員を分離してMR医学総合研究センターを新たに設置することになりました。(新)分子神経科学研究センターは神経難病を主要テーマに新たな活動を展開することになりますが、従来同様本学研究活動をリードする活躍を期待しております。

前述した如く、従来あるIVMRに加え平成15年予算で7テスラの高磁場動物実験用MR装置の設置が認められ(4億円)、低侵襲医学・医療の開拓を目指したハード面での態勢が整ったことから、「MR医学総合研究センター」(学内措置)を新たに立ち上げることに致しました。将来、本学の研究、診療活動の中核となっていただけのものとして期待しております。

平成14年には動物実験施設を改組し、新たに「動物生命科学研究センター」(学内共同教育研究施設)

として発足させました。従来の施設に加えて大型動物、特にサル用の施設を大幅に拡充し(工費11億円)、世界でも有数の動物実験用研究施設として生まれ変わりました。将来的には自家繁殖したサル800頭を収容する施設へと発展していく予定であります。また、サルES細胞の作成に成功しており、疾患モデルサルの作成を目指した遺伝子改変サル研究にも着手しております。

診療面での動き

平成12年にはリアルタイムのMR画像下で手術、検査等が行える「治療支援MRシステム」(IVMR)が国内では初めて導入され、稼働し始めました。肝臓がんの治療等に威力を発揮するとともに、周辺機器の開発にも先端的な活動を行っております。

平成13年には、病院の経営改善を目指して「経営担当副病院長(非常勤)」のポストを新たに設け、学外から公募による人選を行い、奥信氏に就任して頂いております。

平成14年、附属病院においては「患者様に分かりやすい診療体制」とすべく、内科、外科を臓器別診療体制(内科系7診療科、外科系4診療科)に再編いたしました。そのため、従来の3内科学講座を1「内科学講座」へ、2外科学講座を1「外科学講座」へ大講座化したしました。中でも、心臓血管外科の活躍は目ざましく、「患者様に分かりやすい診療」のみならず「患者様や院外の医療関係者に評価される診療」を実践されていることは喜ばしい限りであります。

更に、集中治療部と救急部を統合し、「救急集中治療医学講座」として新設いたしました。学内外で高まっている救急医療への期待に応えるべく、院内体制を整備する目的でなされた処置であります。また、平成16年より始まった「卒後臨床研修義務化」に対応するために救急医療の研修プログラムを充実させることも目的の一つとなっております。

附属病院が目指す「患者様中心の医療」が実践されるよう、今後とも制度面での整備を推進していく予定であります。

法人化をめぐる動き

平成11年4月、「国の行政組織の減量、効率化等に関する基本的計画」が閣議決定されたことを受け、本学ではすばやく5月に「独立行政法人化に関する委員会」を設置し、法人化に関する議論を始めました。当時、国立大学協会は教育・研究機関である国立大学の特殊性から通常の独立行政法人化には反対、いわゆる通則法による法人化には反対であるとの声明を出しておりました。翌平成12年5月になり、文部科学大臣が「国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議」の設置を提案したことを受け、国立大学協会としても本会議に代表を参加させ、議論に加わる姿勢を示しております。更に、平成13年6月に文部科学大臣が「大学(国立大学)の構造改革の方針」を発表したことから、国立大学法人化は社会の大きな注目を集める課題となりました。本学でも、国立大学協会での議論に歩調を合わせるべく、6月には「国立大学法人化に関する委員会」を発足させて学内での議論を進めていきました。平成14年3月に調査検討会議から「新しい国立大学法人像について」と題する最終報告書が公表され、通則法とは別個の法人法に基づく法人化を提言したことから、4月の国立大学協会総会でこの提案を受け入れる決定を賛成多数(挙手)で下すに至りました。この折の白熱した議論は極めて印象的であり、各大学の学長が大きな不安と懸念を抱きつつ、しかし前に進まなければ改革できないとの決断を感じさせる総会でした。

その後、「国立大学法人化法案」は平成15年7月に成立したことを受け、本学でも各分科会を中心に法人化への具体的な準備作業を進め、何とか平成16年4月1日「国立大学法人滋賀医科大学」へと移行することができました。とは言え、国立大学法人の運営をどのように進めていけばよいのかはやらなければ分からないことが多く、しばらくは試行錯誤の状態が続きそうです。

大学統合の動き

前項でも触れましたが、平成13年6月に開かれた国立大学協会総会で挨拶に立った遠山敦子文部科学大臣の発言「大学(国立大学)の構造改革の方針」は、学長に就任したばかりの小生にとっては、極めてショッキングな内容でありました。この発表はその後「遠山プラン」と名付けられたもので、1 国立大学の再編・統合を大胆に進める、2 国立大学に民間的発想の経営手法を導入する、3 大学に第三者評価による競争原理を導入する、の3項目より成り、その上で国公私「トップ30」大学を世界最高水準に育成する、と云うものでした。

当時、山梨医科大学と山梨大学が統合の話し合いを行っていることが話題になっておりましたので、新設単科医科大学を中心に大学統合が一挙に具体的課題となってきました。特に、遠山プランでは「単科大(医科大など)と他大学との統合等」と名指しされたこともあり、また、法人化に際しては大学数の削減は必須との見通しがあったことから、本学でも教授会の議を経て、平成13年8月より先ず同県内にある滋賀大学との間で統合を話し合う協議会を立ち上げ、議論を開始しました。両校の話し合いが順調に推移していた秋になって、京都工芸繊維大学が、更に京都教育大学がこの話し合いに参加したいとの意思表示があり、翌平成14年からは4校による話し合いを始めることになりました。ただ、教員養成系学部の削減問題が新たに浮上したこともあって、先ず滋賀大学教育学部と京都教育大学との間で、教員養成系学部をどう扱うかについて当事者同士の話し合いを行って頂くことになりました。

しかしながら、新しい教育学部のあり方について両者の意見調整が難航していたところへ、國松滋賀県知事から「4大学統合に反対」との見解が表明され、混沌とした状態となりました。おりしも、法人化の課題が迫ってきている折でもあり、法人化後に改めて協議しようとの認識で止まっているところでもあります。

その他のトピックス(特記事項)

1. メジャージャーナルへの論文掲載

平成14年、Nature genetics誌の7月号に検査部茶野徳宏助手(現臨床検査医学講座助教授)らの癌抑制遺伝子に関する論文が掲載されました。滋賀医科大学からは初めてのメジャージャーナル掲載であり、開学以来の快挙と云えます。更に、翌平成15年には、Nature medicine誌の5月号に小島秀人医師(現放射線基礎医学講座助教授)藤宮孝子解剖学第一講座助教授らの糖尿病の遺伝子治療に関する論文が、米国ペイラー大学との共同研究ではあるが、掲載されました。茶野、小島、藤宮各先生はいずれも滋賀医科大学の卒業生であり、また現在ミシガン大学でフェローとして働いているやはり本学卒業生の猪木健先生はトップジャーナルとされる「Cell」誌にファーストオーサーで論文を掲載しております。このように、本学卒業生が順調に成長し、国際的に評価されるトップクラスの研究業績を挙げておられることは大変喜ばしいことです。

2. 地域貢献特別支援事業費の採択

文部科学省は、平成14年度より国立大学の地域貢献に際して、特に優れた取り組みを重点的に支援する事業を実施していますが、本学の滋賀県、龍谷大学(2年目より滋賀大学も参加)との共同支援プロジェクトが平成14年に採択され、15年、16年と3年継続の採択となっております。1年目は150万円のみ、2年目は2,000万円、3年目は1,500万円の配分があり、医療福祉教育研究センターの設置、公開シンポジウムの開催、各種学習会開催等の活動を行ってきており、本学の地域貢献活動の中核となっております。

3. 学長裁量経費の重点配分

平成13年度より、MR医学、疾患モデルサル研究(ES細胞)、生活習慣病を重点プロジェクトとして取り上げ、毎年研究費の重点配分を行っております。必ずしも十分な配分額ではありませんが、各プロジェクトの研究者の努力により、動物生命科学研究センターの設置、大型研究費(基盤A及び基盤S)の獲得などの成果が得られていることは喜ばしい限り

です。

将来への展望

論語の言葉に「吾れ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。」とあります。滋賀医科大学も三十歳にして「立つ」こと、即ち自らの足で立つこと、が求められております。三十歳になったこの年に法人化され、自立性、自主性、独自性を発揮することが求められる体制に移行したことは、単なる偶然では無いかも知れません。

独り立ちした滋賀医科大学はこれからどのような構想の下に、どのような活動を行い、どのような大学を目指していくのが最善なのでしょうか。本学創設時の基本構想をみると、「地域の特徴を生かし、従来の慣習・制度にとらわれない、新しい独自の医学の教育・研究機関を創設する」との一節が書かれております。この文章は今でも、むしろ今だからこそ本学の基本構想として再認識すべきではないかと考えております。自立した滋賀医科大学は、新たな独自性を有する大学を目指して歩み始めるべき時が来たと云えます。

1. 教育活動の充実を目指す

近年、大学における教育活動について一般社会からの懸念が示されております。社会が期待する人材育成が十分なされていないのではないかととの疑念があります。大学自身にも研究センターの運営が主流となっていることへの反省が生まれており、教育の内容、方法、技法などの見直しが進められております。また、教員の再教育も定期的の実施されるようになりました。「教員中心の大学」から「教育中心の大学」への流れが出来つつあるように思われます。本学では、平成16年4月、「医療人育成教育研究センター」を設置しましたが、あらゆる教育活動を客観的に評価できるよう統一化を図る、学生の追跡調査を実施し教育の成果を検証する、またその成果を入学者選抜方法の改善に活用するなどの機能を果たしてもらい、教育活動の集約化を通して教育の質の向上を目指していきたいと願っています。

今後とも、「良医を育て、名医が羽ばたく大学」を目指した教育方針を貫きたいと考えております。

2．メディカルスクール化を図る

現時点において社会が医科大学に最も期待していることは、信頼できる医師の養成ではないかと思っております。無論、最先端の医療を提供すること、新しい医学・医療を創出してもらいたいとの願いがあることは確かですが、医療界、特に医師に対する不信任は大きく、我々医師養成機関としても何らかの対応をせまられているのではないかと認識しております。

そこで、有能でかつ実践的な知識と能力を備えた医師を養成することに特化した教育プログラムを備えた大学が望ましいと考え、4年制大学を卒業した方々から入学者を選抜し、医学の専門教育を集中的に授けるメディカルスクールに変えていくことを計画しております。無論、制度上の問題もありすぐには変更できないので、当面は現在ある学士編入学の定員を徐々に増員していく予定にしております。

3．附属病院の再開発を実現する

附属病院が建てられて既に四半世紀が過ぎ、建物の老朽化が進んでおりますが、問題なのは機能的な老朽化です。大半が6人部屋から構成されている病棟の狭隘さ、患者アメニティの悪さ、手術室・ICUの狭隘さ等々、病院スタッフの能力が十分発揮できないことが大きな課題であり、是非病院の再開発を実施したいと念願しております。小泉内閣の発足で財投が削減されているため財源の確保が年々困難になっておりますが、附属病院の経営的自立性を高めるためにも必須の事業であり、実現への努力を続けてまいります。

日本、济贺医科大学校长

尊敬的 吉川隆一先生：

值贵校九州周年之际，谨致以最热烈的祝贺，
并祝贺贵医科大学这九州府所取得的不朽成就
创造的不凡业绩。

诚挚地祝愿贵校与北京大学姊妹校际
关系进一步深入发展。

交流之花盛开

友谊之果常结

中国北京大学校长

于友朋



2004.5.25

国際交流協定締結大学からの祝辞

北華大学

Beihua University



日本 滋賀医科大学校長
尊敬する吉川隆一先生：

貴校の創立三十周年の時にあたり、謹んで心から祝詞を申し上げます。また、滋賀医科大学が建学以来三十年間に得られた多大な功績と非凡な業績に対しまして、衷心よりお祝い申し上げます。

北華大学と滋賀医科大学との姉妹校関係がより一層発展いたしますよう、心より祈念申し上げます。

交流の花 盛んに開き
友誼の果 常に結ぶ

中国北華大学校長

于 庚蒲

2004年 5 月25日

祝辞

Congratulations



HARBIN MEDICAL
UNIVERSITY

157 Baojian Road, Nangang District, Harbin, P.R.China 150086

International Exchange Office
Fax and Tel: (0451) 6669485
E-mail: fac@jems.hrbmu.edu.cn

贺 信

欣闻日晖国酒贺医科大学建校三十周年华诞，我谨代表哈尔滨医科大学全体员工，并以我个人的名义，向贵校及诸位同仁致以诚挚的祝贺！

近年来，哈尔滨医科大学和酒贺医科大学作为友好姊妹校，成功地开展了多领域的国际交流与合作，并取得了令人瞩目的斐然成绩。同时酒贺医科大学为哈尔滨医科大学培养了多名优秀的青年教师和医生，给予了无数热情的支持和无私的帮助，我谨作为哈尔滨医科大学的校长，向贵校致以深深的谢意！

哈尔滨医科大学愿与贵校继续加强校际间联系，共同为人类的健康而努力！

衷心祝愿酒贺医科大学蓬勃发展！欣欣向荣！

衷心祝愿哈尔滨医科大学与酒贺医科大学的友谊之树万古长青！

哈尔滨医科大学

校长

杨志军

2004年7月1日



哈爾濱医科大学

Harbin Medical University



祝 辞

このたび滋賀医科大学が建学30周年を迎えられましたとのこと、哈爾濱医科大学の教職員を代表いたしまして、謹んでお祝い申し上げます。また、わたくし個人といたしましても、貴校ならびに関係各位に対し、心より祝詞を申し上げます。

近年、哈爾濱医科大学と滋賀医科大学とは友好姉妹校となり、多くの分野で国際交流や研究協力を推進し、目を見張るほどの卓越した成果を収めてまいりました。また、滋賀医科大学におかれましては、哈爾濱医科大学のために数多くの優秀な若手教員や医学生を養成していただき、ひとかたならぬお力添えと無私のご協力を頂戴いたしております。わたくしは哈爾濱医科大学校長といたしまして、謹んで貴校に深甚なる謝意を表したく存じます。

今後とも、哈爾濱医科大学と貴校との協力関係がより強いものとして継続してゆきますよう、お願い申し上げます。

滋賀医科大学がこれからもより一層輝かしく発展されますよう、心よりお祈り申し上げますとともに、哈爾濱医科大学と滋賀医科大学との友好の樹が永遠に青々と繁り続けますよう、衷心より祈念申し上げます。

哈爾濱医科大学
校長 楊 宝峰
2004年 7 月 1 日

THE UNIVERSITY OF BRITISH COLUMBIA



6328 Memorial Road
Vancouver, B.C. Canada V6T 1Z3

Telephone (604) 822-2121
Fax (604) 822-5055

Martha C. Piper, Ph.D.
President and Vice-Chancellor

July 7, 2004

Dr. Ryuichi Kikkawa
President
Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinowa-Cho, Otsu
Shiga, 520-2192
JAPAN

Dear Dr. Kikkawa:

It is a pleasure to bring you greetings from the University of British Columbia. I would like to extend congratulations on the 30th anniversary of Shiga University of Medical Science.

The cooperation and friendship between our two institutions have given us a strong base from which to continue expanding our relationship. We look forward to building even greater capacity as we celebrate Shiga University's 30 years of academic achievements.

I appreciate the special relationship between the University of British Columbia and Shiga University of Medical Science. I wish you great success with the festivities to mark this milestone.

Yours sincerely,

Martha C. Piper

ブリティッシュ・コロンビア大学

The University of British Columbia



2004年 7 月 7 日

吉川学長 殿

ブリティッシュ・コロンビア大学より御挨拶を申し上げることを光栄に存じます。滋賀医科大学の創立三十周年おめでとうございます。

両大学の協力と友好は、私達の間を末永く発展させる強固な基盤となっています。滋賀医科大学の三十年間の学術的成果にお祝いを申し上げるにあたり、両大学がさらに強い絆を築き上げることを期待いたします。

私は、ブリティッシュ・コロンビア大学と滋賀医科大学の間の親密な関係を高く評価するものです。この一里塚となる祝典のご盛会をお祈り申し上げます。

敬 具

学 長

マーサ・C・パイパー

祝辞

Congratulations



MARY SUE COLEMAN
PRESIDENT

THE UNIVERSITY OF MICHIGAN

400 TOWN SQUARE
ANN ARBOR, MICHIGAN 48106-1500
TEL: 734 763-1000

July 6, 2004

Ryuichi Kikkawa, M.D.
President
Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinawa-cho, OTSU
Shiga 520-2192
JAPAN

Dear President Kikkawa:

I would like to join the international higher education and scientific communities in congratulating Shiga University of Medical Science upon its 30th anniversary. This is a tremendous achievement that reflects the dedication that your university has shown to promoting medical education and research. Shiga University of Medical Science has done an outstanding job of training future doctors, nurses, and researchers in an environment that encourages a sense of ethics as well as the spirit of scientific inquiry.

The University of Michigan sincerely appreciates the cooperation that our institutions have enjoyed with one another. On behalf of the University, I would like to extend my sincere best wishes as you embark upon the next 30 years of your journey.

Sincerely,

Mary Sue Coleman
President

ミシガン大学

The University of Michigan



2004年 6 月 6 日

吉川学長 殿

滋賀医科大学の創立30周年にあたり、国際高等教育・科学界の一同とともに、滋賀医科大学にご祝辞を申し上げます。これはすばらしい業績であり、貴大学が医学教育と研究の振興に多大の貢献をなさったことを示すものであります。滋賀医科大学は、科学的探究心とともに倫理観を鼓舞しつつ、未来の医師、看護師、研究者を育成し、顕著な成果をあげてられました。

ミシガン大学は、両大学がこれまで相互に享受してきた協力関係を高く評価しています。貴大学のつぎの30年に向けての船出に際し、私は大学を代表して、深甚の敬意を表したいと思います。

敬 具

学 長

メアリー・スー・コールマン

祝辞

Congratulations



Faculté de Médecine
d'Amiens
3, rue des Louvels
80036 AMIENS Cedex 1
Tél. 00 33 30 23 22 82 77 12
Fax 00 33 30 23 22 82 77 60

President Ryuichi KIKKAWA
Shiga University of Medical Science
SETA TSUKINOWA – CHO, OTSU
SHIGA, 520-2192
JAPAN

■ Le Doyen

Amiens, le 29 juillet 2004

Monsieur le Président et Cher Collègue,

C'est avec un très grand plaisir que l'Université de Picardie Jules Verne participera à la célébration du 30^{ème} anniversaire de la fondation de l'Université des Sciences Médicales de SHIGA.

J'aurai pour ma part le grand honneur d'y représenter notre Président au sein de la délégation hospitalière et universitaire amiénoise.

Au-delà du plaisir de vous rencontrer et de découvrir personnellement cette Université avec laquelle des relations privilégiées ont pu, grâce à l'heureuse initiative de plusieurs de nos Collègues, se nouer au cours de ces dernières années, j'espère vivement, et toute notre communauté universitaire avec moi, que cette rencontre nous permettra de donner une nouvelle impulsion à la collaboration de nos équipes respectives.

Dans l'attente de ces moments privilégiés d'échange et d'amitié, je vous prie de croire, Monsieur le Président et Cher Collègue, à l'expression de mes sentiments les plus cordiaux.

Professeur Bernard NEMITZ
Doyen de la Faculté de Médecine
Ancien Président de l'Université
de Picardie Jules Verne

UNIVERSITÉ de Picardie Jules Verne
Faculté de Médecine
d'Amiens



ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学

Université de Picardie Jules Verne



吉川学長 殿

滋賀医科大学創立30周年の祝賀に、ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学が参加いたしますことは、この上ない喜びであります。

私といたしましては、アミアンの大学と病院の代表団の一員として、学長の代理を勤めますことを非常に光栄に存じます。

貴大学とは、私達の多くの同僚たちのすばらしいイニシアチブのお蔭で、これまでにすばらしい関係を結ぶことができましたが、その大学を自ら訪問し、貴殿にお目にかかることのできる喜びはもちろんであります。それ以上に、この出会いが各交流グループの協力関係に新たな推進力となりますことを、私ならびに私達の大学全学をあげて、切に望むものであります。

近いうちにお目にかかり、友好を温めることができることを楽しみにしています。

敬 具

ベルナール・ネミッツ 教授
ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学
医学部長、元学長

祝辞

Congratulations



DIRECTION GENERALE

Amiens, le 29 juillet 2004

Monsieur Ryuichi Kikkawa
Président of Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinowa-Cho, Otsu
Shiga, 520-2192 JAPAN

Le Directeur Général

Cher Monsieur le Président,

C'est un grand honneur, pour moi, que d'accepter votre très aimable invitation à l'occasion du trentième anniversaire de la fondation de l'Université de sciences médicales de Shiga. Aussi est-ce avec un très grand plaisir que j'y participerai et représenterai, accompagné d'une délégation française de Picardie, le Centre Hospitalier Universitaire d'Amiens-Picardie, pour qui ce sera également un grand honneur que de s'associer à la commémoration de ce très grand événement.

Pour concrétiser les rapports conventionnels qui existent, au plan scientifique, entre nos deux universités, je souhaite, que notre rencontre soit l'occasion de développer, plus spécifiquement, le partenariat existant entre les équipes chirurgicales de nos deux établissements hospitaliers, dans les domaines de la chirurgie orthopédique de l'adulte et de l'enfant, ainsi que dans les applications de la chirurgie viscérale et digestive.

A cet égard, je me permettrai de proposer, à votre agrément, les principes d'une convention de partenariat entre nos deux hôpitaux universitaires.

Je suis très heureux que l'opportunité nous soit ainsi donnée de renforcer les liens qui nous unissent depuis plus de dix ans.

Dans l'attente du vif plaisir de vous rencontrer bientôt à Shiga, je vous souhaite beaucoup de prospérité dans l'ensemble de vos activités hospitalières et universitaires.

Je vous prie d'accepter, cher Monsieur le Président, avec l'expression de mes sentiments les meilleurs l'assurance de ma très haute considération.

Philippe Domy



CENTRE HOSPITALIER UNIVERSITAIRE D'AMIENS - 80054 AMIENS Cedex 1
Tél 03 22 66 80 10 - Télécopie 03 22 66 80 19
e-mail : domy.philippe@chu-amiens.fr Internet : http://www.chu-amiens.fr

ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学

Université de Picardie Jules Verne

ピカルディー・アミアン大学病院センター

Centre Hospitalier Universitaire d' Amiens-Picardie



学長殿

滋賀医科大学創立30周年記念祝典へのご招待を喜んでお受けいたします。ピカルディーのフランス代表団を伴って祝典に参列し、ピカルディー・アミアン大学病院センターの代表を勤めますことは、私にとって大きな喜びでありますとともに、大学病院センターにとりましても、この大きな行事を共にお祝いすることは大きな名誉であります。

私達両大学間の学術協定を具体化するために、この度の私達の出会いが、成人と小児の整形外科領域のみならず、内臓消化器外科の領域をも含めて、特に両病院の外科チーム間のパートナーシップを発展させる機会となることを願っています。

この件につきましては、御同意が得られるならば、両大学病院間のパートナーシップ協定の概略を提案させて頂きたいと思っています。

この機会に、私達の十年以上にわたる絆を、更に堅固にすることができますことを嬉しく思います。

まもなく滋賀の地でお目にかかれることを楽しみにしつつ、貴大学のますますの発展を祈念致します。

敬 具

フィリップ・ドミー